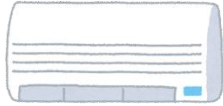




来年度予算要望で



葉山町長と懇談しました。

神奈川みなみ医療生活協同組合は、11 月 6 日、「来年度予算を視野に入れた医療・福祉に関する緊急要請」を行い、町長と懇談しました。要請は、下記の 6 項目になりました。

1. 介護施設等で新型コロナによるクラスターが発生した場合には、減収を補うための助成金を支給すること。
2. 医療機関や介護施設等に対して、物価高騰支援策として引き続き給付金を支給すること。
3. 熱中症対策として、エアコン購入費用の助成を行うこと。
4. 带状疱疹ワクチン接種費用の助成を行うこと。
5. 補聴器を必要とする人を対象に購入費用の助成を行うこと。
6. ショートステイ施設の入所が長期になり、減算の対象になった場合、その差額を補填すること。

町長との懇談は、約 1 時間に及びましたが、具体的な進展はありませんでした。ただ、現状を認識してもらえたことや検討課題だと回答を頂いた点では良かったと思います。特に带状疱疹ワクチンの接種費用の助成と補聴器購入費用の助成については「内部で意見が分かれている」との情報が得られました。

国は、带状疱疹のワクチン接種について定期接種に加えるかどうか検討していますが、まだ結論が出ていません。昨年 12 月には、県議会や葉山町議会でも「带状疱疹を定期接種に加え、ワクチン接種の費用助成を求める意見書」を国に提出しています。今年の 3 月には逗子市議会も同様の意見書を国に提出しました。神奈川県内では、今年 4 月から海老名市・松田町・清川村で費用の助成を実施していましたが、7 月からは箱根町が加わりました。こうした動きを受けて、7 月には逗葉医師会が「ワクチンの費用助成と定期接種化」を求めて、逗子市や葉山町に要請しました。同席した町民健康課の課長補佐は、「他の自治体と同様に 50 歳以上を対象に費用の半額を助成した場合、接種率 10%で 3,500 万円程度の財源が必要になる。現状で言えば町単独の助成は難しい。定期接種になれば助成は可能」と回答。改めて、国や県への働きかけが重要だと示しました。

補聴器購入費の助成については、今年の 6 月から逗子市が開始したことにより、同じ医師会に所属する葉山町でも、ぜひ助成を実施して欲しいとお願いしました。補聴器自体の費用が高く、助成金額も高くなることから、同席した福祉部の部長は、

「現状は逗子市の取り組みの実施状況を見て判断せざるを得ない。費用対効果など多方面から検討をしている」「町内の耳鼻科を開設している医療機関の協力や認定補聴器技能者の協力も必要であり、現状は情報を収集している段階」と回答。実施までは、時間がかかりそうだが、「問題は補助の対象者がどの程度いるのか、その把握が難しいこと」かもしれない。しかし、町長の政治判断で実施されることもあるので、引き続き、実現に向けて働きかけていきたい。なお、懇談には、窪田町議と近藤町議が同席しました。

山梨崇仁 葉山町長に要望書を手渡しました

